

Jupiter

ジュピター

2025

冬号

VOL.56

岡山県精神科医療センター理念 | 人としての尊厳を第一に安心・安全の医療をめざします。

信



当センターのシンボルマークは
安心・安全の医療を表しています

ノアの方舟で主人公ノアがハトを放ち、オリーブの葉をくわえて船に戻ってきたところを表しています。安住の地を求めて、安心・安全の医療を追求し進んでいくことをシンボライズしています。

CONTENTS

2 新年のごあいさつ

2 病院優良職員表彰式

4 第8回アジア太平洋
作業療法学会に参加して

5 第32回 日本精神科救急学会
学術総会 参加レポート

5 知ってもらいたい
包括的こども虐待
防止チームの取り組み

6 岡山県精神科医療センター
での研修を終えて

7 地域連携室だより
いろいろなかたち
いろいろなタイプ
脳にもいろいろあるんです

8 EVENT REPORT

・東古松サント診療所 デイケア
・岡山県精神科医療センター デイケア

2025年 新年のごあいさつ



今年の一文字
温

院長 来住 由樹

皿上の器中が温められて熱気が満ちている様を「温」といいます。温には、心がこもり、そばにいて静かに暖かさが伝わる、「ぬくもり」のような語感を感じます。「温」は、温顔、温言、温恕と、相手の心にほっこりとした気持ちが届き、種火がともるような言葉を作ります。温かさは、近くにいる人たちに分かち合われていくに違いありません。

「温」故知新。大切にしてきたこと、これまでの営みをしっかりと温め、大切なものの再発見を職員の皆様一人ひとりをお願いしたいと思います。



今年の一文字
信

理事長 山田 了士

今年の一文字は「信」です。

昨年、当センターはサイバー犯罪を受けたことから、患者さんたちの信頼を損ねることになってしまいました。本当に申し訳ありません。病院としてあらゆる改善を施して、まっとうに信じて頂けるようにと、一同今も励んでおります。

ただ近ごろは、AI製の超リアルなニセ物や、極端な考えなどが勢いを増して、人や物事を信じるといったことが難しい時代になってきている気がします。正しく信じ、信じられるにはどうすればいいのか、答えは簡単ではありませんが、それをしっかりと考えて、地域の医療を守ることに繋がっていききたいと思えます。

病院優良職員表彰式



病院優良職員表彰式の様子

令和6年10月18日(金)、岡山県病院協会主催の「病院優良職員表彰式」がホテルグランヴィア岡山にて行われました。県内の医療従事者のうち、今年度は200名が表彰され、当センターからは3名が受賞しました。この度は本当におめでとうございます。

精神保健福祉課 課長
牧野 秀鏡

この度は、岡山県病院協会主催の病院優良職員表彰を賜り、心より光栄に存じます。日々の業務において支えてくださる上司や同僚の皆さん、そして患者さんのおかげで、このような

救急急性期入院棟 看護師長
福山 睦美

素晴らしい評価をいただくことができました。今後より一層、患者さんに寄り添い、安心と信頼を提供できるよう精進してまいります。引き続き、地域医療の向上と精神科医療における権利擁護に貢献できるよう努めますので、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

急性期・依存症治療入院棟 看護師長
坂本 佳子

令和6年度、岡山県病院協会主催の病院優良職員表彰式に参加させていただきました。当センターへ入職してから18年間、多くの方々と出会うことができ、多くのことを教わり、様々な経験をさせていただきました。年齢や疾病を問わず、患者さんの回復と社会復帰に向けた関わりや支援機関との連携の経験だけでなく、COVID-19の外来対応の経験を乗り越えられたのも日々皆様のおかげだと感謝しています。これからも感謝の気持ちを忘れず頑張りたいと思います。



(左から)福山師長、坂本師長、牧野課長

令和6年11月6日から9日まで、札幌コンベンションセンターで行われた「第8回アジア太平洋作業療法学会(APOTC2024)」にて、私と初鳥作業療法士(東古松サントク診療所)が共同でポスター発表をしました。この学会は、世界作業療法士連盟(WFOT)の地域グループ単位の学会で日本での開催は初めてです。参加国は、日本、韓国、シンガポール、台湾、中国、オーストラリア、フィリピン、マレーシア、タイ、モンゴル、ニュージーランドなど12カ国で、使用言語は英

語でした。今回は、作業療法士の資格を活かして地域で働く相談支援の活動内容を、「川モデル」を利用して紹介するという実践報告をしました。「川モデル」とは、作

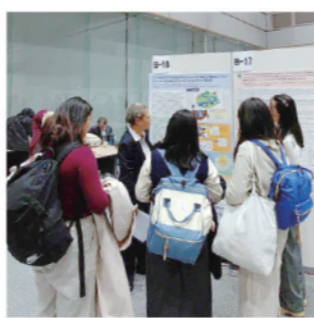
ポスター制作に協力してくれた岡崎精神保健福祉社(左)。素敵なポスターに仕上がりました

業療法の実践内容を川の喩えで説明する方法で、1999年にMichael Iwama氏と我々岡山の臨床作業療法士が共に開発したものです。この学会でもアジア諸国の作業療法士が「川モデル」を利用して事例を表現したり、作業療法士自身がキャリア形成を見直す取り組みをしたりと、様々な活用されていて勉強になりました。国際学会というハードルが高いと感じられるかと思いますが、最近は翻訳ツールも精度が上がリ、スマホで使うことができるため、以前に比べてやりとりがしやすくなっていました。

また、データを扱うことが主流の基礎研究よりも、実際にどのような活動をしているかを説明する実践報告が多く、興味深く聞くことができました。学会に参加するアジア諸国の作業療法士は学習意欲が旺盛で、大変積極的に質疑応答を行います。私たちのポスター発表に

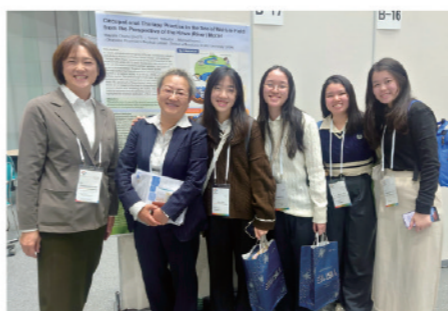


(左から)奥田作業療法士と世界作業療法士連盟(WFOT)のSamantha Shann会長



ポスター発表の様子

もたくさん若い作業療法士が来て、積極的に質問をしたり感想を述べたりされ、刺激を受けました。過去の国際学会で知り合った同業者に会うこともできて、本当に有意義な時間を過ごすことができました。本学会の最後は、世界作業療法士連盟(WFOT)のSamantha Shann会長の講演で締めくくられました。その中で、作業療法士は病院から地域に出て活動することを強く呼びかけられたため、講演終了後、自分のポスターの縮刷を持ってご挨拶に行きました。快く受け取って写真撮影に応じていただき、良い記念となりました。国内で行われる国際学会は、とてもリーズナブルにその恩恵を受



シンガポールの作業療法士の皆さんと



(左から)ポスター発表をした東古松サントク診療所の初鳥作業療法士と奥田作業療法士

第32回 日本精神科救急学会学術総会

The Japanese Association for Emergency Psychiatry

参加レポート



懇親会ではおいしい岩手名物「わんこそば」をいただきました

令和6年10月24日・25日に岩手県盛岡市で開催された「第32回日本精神科救急学会学術総会」に参加しました。私自身初めての学会参加でしたが、非常に貴重な機会となりました。超高齢社会の現在、総合病院と精神科病院の連携も重要になるため、身体科の病院で働く社会福祉士とつながり、お互いの実情を知る機会があれば日々の業務に活かせるのではないかと考えました。手厚いチーム医療で地域滞在日数が増加するという報告がありますが、当センターは各入院棟に他職種が配置されており、手厚い体制が整っているため、そのメリットを最大限に生かし、より多角的な視点を交えて退院支援を進

めていきたいと思えます。また、大会長企画特別講演「東日本大震災津波の教訓と継承—命を守る取り組みを次世代へ—」を拝聴しました。災害が起きた当時、私はまだ小学生で、映像越しに「大変な災害が起きたな」という印象を持つことが精一杯でしたが、復興に向けて日々奔走される方々の苦労や苦難を聞くことで、今自分の立場で何ができるのかというのを改めて考えることができました。日々の業務では触れることの少ない分野を知ることも、ケースワークを行う上で有用になるということに気づくことができました。(文)精神保健福祉士・土山純平

知ってもらいたい 包括的子ども虐待防止チームの取り組み

CAP(子どもへの暴力防止プログラム)研修を受けたスタッフは、その考えを基に「包括的子ども虐待防止チーム」の立ち上げ活動しています。両親のDV被害に巻き込まれたり、虐待を背景に育っていたり、幼少期の生育環境が影響し生きづらさを抱え大人になっていく方もいます。今年度は全4回に渡って研修を開催し、こども時代の逆境体験を生きた方をどうサポートすれば良いのかについて、幅広く情報の発信・普及を行っています。



多職種の方が参加し、熱心に耳を傾けていました



講師を務める中井看護師

私自身、研修開催に携わる中で、プライベートパートやバウンダリー(境界線)、性的同意についてなど、初めて触れる知識に驚くと共に、もっと早く知っておきたかったという思いを持ちました。それは、患者さんとの関わりに役立つのはもちろんですが、DVや虐待、性被害など、子どもを取り巻く社会問題は自分たちの生活と身近にあると実感したからです。自分で自分を守るように、また守ってもらえる環境が広がるように、今後も私たちの活動を応援していただくと嬉しいです。(文)看護師・内藤学

地域連携室だより

いろいろなかたち いろいろなタイプ ～脳にもいろいろあるんです～

神経発達症パンフレットのご紹介

生まれ持った脳の特性には長所と短所があります。自己理解を深め、自分で工夫したり、周囲に助けってもらったり、上手くいくための環境を整えることが大切です。

この度、ご本人やご家族に神経発達症（発達障害）について説明するためのパンフレットができました。神経発達症の正確な情報提供を行うことで、診断や診察を受けられた方の不安を軽減し、特性を理解してもらい、今後の支援・対策について話し合うことを目的に作成されました。



point

- ご本人、ご家族、関わる人みんなが考え、理解を深められる
- イラストでイメージしやすい
- 文字も大きく内容がわかりやすい



●このパンフレットは、岡山市発達障害専門医療機関等養成研修事業の一環で作成されました。

パンフレットのダウンロードはこちら



神経発達症（発達障害）について

神経発達症の原因はまだはっきりとはわかっていませんが、生まれつき持っている脳の働き方に特徴があるとされています。代表的なものに、自閉スペクトラム症（ASD）、注意欠如多動症（ADHD）、発達性学習症（LD）などがあります。

詳細は地域連携室までお問い合わせください

地方独立行政法人 岡山県精神科医療センター

■ 連携室直通 / tel.086-225-3833 (9:00~16:30) ■ 住所 / 〒700-0915 岡山県岡山市北区鹿田本町3-16
 fax.086-225-3855 ■ 代表 / tel.086-225-3821 (24時間対応)



社会医療法人北斗会 さわ病院・楢晋輔看護師（真ん中右）と記念撮影

岡山県精神科 医療センターでの 研修を終えて

文 / 社会医療法人北斗会 さわ病院 看護師・楢晋輔

この度、さわ病院の幹部職員として、高い視座と広い視野を持った管理活動が今後展開できるよう、他院のマネジメント活動の一端を見て、聞いて、体験して管理活動に必要なスキル（目標設定・組織化・モチベーションの維持・評価・人材育成など）を習得することを目的とし、他の医療機関のマネジメントを学ぶために貴院にて研修させていただきました。最初の4週間は西3入院棟で看護師の一人として入り、病棟の一日の流れを見せてもらい、看護師の動きや委員会活動にも参加しました。

基本的に当院の救急病棟でやっていると変わらない動きですが、一人の患者さんに関わるスタッフの数に歴然とした差があることに驚きました（この加配は真似できない）。特にチーム医療の実践については、当院での活動がチーム医療になっていないのではないかと思わせるぐらい圧倒的な差があり、羨ましくもあり、入院するならここが良いと思える環境が提供されていました。患者さんが自らの治療に参加されている様は、当院も見習うべき点として非常に印象に残っています。

当院での課題としては、やはり慢性期病棟をどう動かしていくかなのですが、西2入院棟の実践や入院棟を取り巻く入院棟外のチーム（相談支援や地域連携室、訪問看護等）の連携によって、「必ず地域移行する医療の体現を垣間見ることができたことは、大きなヒントになったと思っています。これまでも見学でいろいろな施設を訪れてきましたが、3カ月間という長期間、中に入ったからこそ見ることでできたことも多かったです（医師が不穩患者の対応を前面に出してきてくれたことは感動を覚えました）。西3入院棟以外にもたくさん入院棟や部門を回らせていただきました。それ



それぞれに言いたいことはたくさんありますが、字数に制限もありますので、これぐらいで筆をおきたいと思います。来住院長先生はじめ、山田看護部長、各入院棟の師長、副師長、その他病院スタッフの皆様には本当にありがとうございました。感謝しかありません。本当にありがとうございました。これも何かの縁だと思っていますので、これからも末永くお付き合いのほどをよろしくお願いいたします。

2024年9月2日から11月29日の3カ月間、「社会医療法人北斗会さわ病院」より楢晋輔看護師が研修に来られました。当センターを選んできたことに感謝いたします。楢さんが肌で感じたことや自院との違いなどをレポートにまとめてくださったので、ご紹介いたします。

EVENT REPORT



東古松サングト診療所
デイケア
楽しみが盛り沢山

10月のフリーマーケットには264名の方が参加してくださいました。今回で7回目の開催となった当イベント。地域の皆さんにも受け入れてくださり、「毎回楽しみにしています」「初めて来ました。また近くなので来ます」などの感想をいただきました。

11月は日帰りバス旅行で、旧閑谷学校、和食料理屋、日本一のだがし売場に行きました。心地よい秋風と、染まり始めの紅葉を堪能しました。だがし売場では、広々とした店内に大量の駄菓子や並んでおり、懐かしさに浸りながら、楽しく買い物を楽しみました。



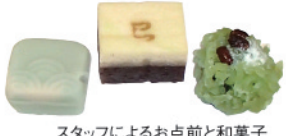
日帰りバス旅行で訪れた旧閑谷学校



日本一のだがし売場



高瀬所長お手製のカレー



スタッフによるお点前と和菓子

12月にはクリスマス会を開催。ビンゴ大会、利用者さんの歌唱ステージ、岡山大学お笑いサークル様の発表、スタッフの楽器演奏ステージと、イベント盛り沢山の一日でした。最後はイチゴのショートケーキを食べ、クリスマス気分を満喫しました。

大晦日は、高瀬所長が腕を振るい、利用者さんと協力してカレーライスを作っていました。寒い中、とても温まりました。年の初めには、お茶会を開きました。お点前を見ながら、新春を感じる和菓子を味わい、マインドフルネスな時間を過ごせました。



岡山県精神科医療センター
デイケア
充実した秋冬のイベント

9月の防災月間に合わせ「防災に関するプログラム」を実施しました。月1回実施している「生活力アップ講座」では、村尾作業療法士による防災講義が行われました。岡山市役所の公式LINEに登録すると、避難所の開設情報やWeb版ハザードマップ、避難時の心得などを見ることができ、講義終了後すぐに登録している方もいらつしました。

12月には「クリスマス会」を開催。ガーランド製作ツリーの飾り、ビンゴカードや招待チケット製作など、準備から利用者さんとスタッフが一丸となって行いました。当日は多くの利用者やスタッフが参加し、ことばビンゴ大会やステージ企画を楽しみました。デイ音部(クラブ活動)やプロのミュージシャンである伊達史典先生の迫力あるギター演奏で会場が盛り上がりました。



村尾作業療法士による防災講義の様子



個性豊かなクッキーが焼きました



11月には白玉バイキングも堪能



伊達先生によるギター演奏



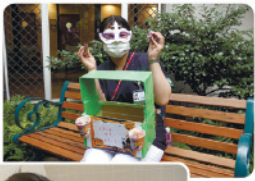
ことばビンゴ大会

デイケアの様々なイベントの中でも食べ物関連のイベントは参加希望者が多く、この冬は「オリーブ・抹茶の生地やトッピングを使い「オリジナルクッキー」を作りました。焼き上がり待ち遠しく、オープンの前でも何度も覗き込んでいる利用者の方の様子が印象的でした。

皆様方におかれましては、健やかに新春を迎えられたことお慶び申し上げます。今年「巳年」です。職員一丸となり「臥龍蛇(がりゅうへび)の勢いで患者さんの安全・安心を第一に良質な医療を提供してまいります。左の写真は各入院棟で行われたイベントの様子をお届けします。ハロウィンイベントでは、「こんなところにも!」というところで看護師が隠れていて、お菓子がもらえるまでの行程も楽しむことができました。東入院棟では冬至の日に「ゆず湯」を提供。爽やかなゆずの香りに患者さんもスタッフもリラックスすることができました。

編集後記

(事務部・志茂香代子)



Jupiter

2025年
冬号
VOL.56

2025年2月20日発行

発行人 山田了士
編集人 来住由樹
発行所 地方独立行政法人 岡山県精神科医療センター
岡山市北区鹿田本町3-16
TEL.086-225-3821代
ホームページ <https://www.popmc.jp>
制作協力 練あどりえ、ぼう
印刷所 友野印刷株式会社